(3) 本年度の学校評価

(3) 本年	度の学校評価	Ī		
本年度の	生徒の成長を第一に考える学校づくりを推進する。			
重点目標	—— 生	E徒が良い表情で登下校する学校を目指す		
	——	厳しいなかにも愛情のこもった指導を粘り強くおこなう		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留 意 事 項	
総務部	PTA行事の	役員会・委員会で、慎重に企画、検討を行う。	PTAと丁寧に議論を重ねて、工夫を凝らす、	
	活性化	各種研修会、講演会への参加者を増やす。案内	連絡徹底のため、絆ネットも積極的に活用する。	
		が保護者の手元に確実に届くようにする。		
	学校行事の円	行事開催に向けて、早い段階から分掌、学年	新型コロナウィルスの影響が予想されるが、臨	
	滑な運営	への調整をはかる。生徒に自分達の行事・式典	機応変に対応する。また、負担軽減のため大胆	
		であることを自覚させる。	に省力化する。	
教 務 部	カリキュラム・マネシ゛メ	昨年度までの動きを継続。各教科、分掌、学	学校全体で取り組む雰囲気を醸成するために、	
	ントの促進	年で PDCA サイクルを回し、学校改善をすすめ	様々な人がカリキュラム・マネジメントの取組に関わり、	
		る。	PDCA に対しての意識を高めること。	
	授業改善	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を	教科や各教員によって意識の差があるので、	
			現職研修等を通じて、意識レベルを高めること。	
		業時に、それを踏まえた研究授業を行う。		
	授業時間確保	学校の根幹は授業であることを再認識する。	全職員が、授業時間確保に対する意識を高め	
		行事検討は、授業時間確保のために、学校全体	てもらうこと。	
	1 41 - 1 1 1	の最善化を考えて精選する。	What have a provent a second and a second a second and a second a second and a second a second and a second a	
	生徒の将来を		進路指導と関連付けした指導を継続し、自ら	
4. 公士 おご キュロ	考えた身だし		<u> </u>	
生使指导部		が向き合える関係づくりのための機会や時間の		
	ナー指導	確保		
	いいみ七分は	本秋しマンケーした第四か時期に中歩イフ	マンな、1の字体味期が目声1 本歌期間の	
	いじめ未然防 止の強化とS		アンケートの実施時期を見直し、面談期間の 適切な設定を行う。また学年及び分掌、SSW	
		ちNらに対する正確な知識と危険性について 指導を強化する。	適切な設定を行う。また子平及い分享、SSW との連携を図る。	
	指導の強化	14年を別任りる。	外部機関との連携を図る。	
	入学試験、進	共通テスト導入後の大学入試の環境変化につ		
		いて情報提供を行い、受験への対応を図る。	努め、進路意識の向上と学力伸長を図る。	
准路指導部	る環境変化へ			
~□M10 (1 HM		環境の変化に対応できる就職指導を行う。	マッチのない選択ができるよう指導する。	
	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	進路行事や総合探究の実施方法について検討		
		し、進路指導体制の改善を図る。	てを検討し、適宜改善を加える。	
	健康維持と環			
保健厚生部	境美化に対す	健康を守る態度や行動習慣を身につけさせる。	宜与え続ける。	
	る意識の向上	健康で安全な学習環境を自ら作り上げる態度	環境をきれいにするだけでなく、汚さないよ	
		を養う。	うにする意識を高めさせる。	
	主体性を持っ	生徒会が主体的に取り組むことのできる学校	生徒会自らが主体的に取り組むため、話し合	
	て生徒会活動	行事にするため、支援や指導を行う。	いや助言を行い学校行事の充実を図る。	
特別活動部	や部活動、ボ	部活動のさらなる活性化のための支援や、ボ	充実した部活動の方策を検討し、さらなる部	
	ランティア活	ランティア活動に積極的に取り組む意識が高ま		
	動に積極的に	るような指導を行う。	情報提供や意義を連絡して、ボランティア活	
	取り組む意識		動の参加率を高め、地域や社会に貢献する望ま	
	を作る。		しい資質の向上を図る。	
	~ ~ > 2 2 2 3		「生徒の成長を第一に考える学校づくり」を推進	
	評価を実施する	1 / - *		
主な評価項目		1 学校全体の取り組みとしてとして、確かな学力・粘り強い生徒の育成を図る。		
		2 学習・進路・生徒指導の取り組みとして、指導方法・指導体制の工夫を行う。		
		3 公開授業を活用して、授業改善に努める。		
		4地域連携として、保護者・地域・町内の中学校・小学校との連携を今以上に強化する。		
		5 学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめのない学校を実現する。 6 教員の働き方改革を進め、生徒に向き合える時間を確保していく。		
		6 在校時間等の削減への取り組みは引き続き網	歴形正 ∪ (V^\。	

(4) 前年度の学校評価 ア 自己評価結果等

(4) 削牛	皮の字校評価	1 / 目己評価結果等			
前年度の	生徒の成長	を第一に考える学校づくりを推進する。			
重点目標					
		後しいなかにも愛情のこもった指導を粘り強くおこ	ナトラ ——		
項口(担ソハ					
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題		
	PTA行事の	役員会・委員会で、慎重に企画、検討を行う。	コロナウィルス感染症の影響により、行事が		
	活性化	各種研修会、講演会への参加者を増やす。案内	実施できなかった。感染対策を万全にした上で		
総 務 部		が保護者の手元に確実に届くようにする。	の行事実施が引き続き課題である。		
	学校行事の円	行事開催に向けて、早い段階から分掌、学年	コロナウィルスの感染対策を考えなければな		
	滑な運営		らず、例年よりも行事運営に神経を使った。感		
		であることを自覚させる。	染対策と行事運営の両立が課題である。		
	カリキュラム・マネシ゛メ	昨年度までの動きを継続。各教科、分掌、学			
教 務 部	ントの促進		サイクルを回す。その他については年度末に振		
	V 1 V 7 1/L/LE	る。	り返った。主体的に行えるかどうかが課題。		
秋 伤 印	を赤小井				
	授業改善	主体的・対話的で深い学びを意識した授業を			
			それを踏まえた授業を行った先生には、現職研		
		業時に、それを踏まえた研究授業を行う。	修にて授業報告を行い、職員で共有した。さら		
			に多くの職員が取り組めるかどうかが課題。		
	授業時間確保	学校の根幹は授業であることを再認識する。	今年度は、授業時間数確保は出来なかった。		
		行事検討は、授業時間確保のために、学校全体	職員の授業に対する認識については、まだ不十		
		の最善化を考えて精選する。	分だと思われる。時間はかかるが意識改革をす		
			る必要がある。		
	生徒の将来を	生徒の内面からの規範意識を高めるために、	生徒の内面から規範意識が高まるように、定		
		教員と生徒が向き合える関係づくりのための機			
生徒指道部		会や時間の確保	事後指導まで丁寧に実施した。来年度も継続し		
工作用寺即	ナー指導	云へ時間の個体	でいきたい。		
		ごぎしったしょ さかかかけ サルマケナフ			
	いじめ未然防		新型コロナウィルスの影響により外部機関によるS		
	止の強化		NS講話が実施できなかった。そのため全校集会等の		
		指導を強化する。	講話でSNSの話題を多く取り入れた。来年度もSN		
			Sに関する指導を強化していきたい。		
	入試制度変更	大学入試における選抜方式の変更情報の収集	PTA進路説明会、職員会議、進学者指導		
進路指導部	への対応を図	と情報提供を通じ、受験への対応を図る。	にて情報提供を行った。今後も充実させたい。		
	る。	インターンシップ、就職指導の充実を図り、	職業インタビューを計画したが実施できなか		
		社会環境の変化に対応できる就職指導を行う。	った。今後も多様な方法を検討したい。		
		新しい調査書への準備を進める。教務部との	新様式での作成は円滑に行うことが出来た。		
		連携を図り、円滑な作成に努める。	年間の準備日程を明確にすることが課題。		
	健康維持と環				
	境美化に対す		校生活のみならず、私生活も含めた精神面での		
促伸盲开动	る意識の向上	に旅とする歴及で日勤日頃と分につけてとる。	自覚をより一層促す必要がある。		
不) 子工司					
	健康で安全な				
			清掃は良く行われたが、手間のかかる部分の清		
		ができた。より一層改善していきたい。	掃の向上が今後の課題である。		
	態度を養う。	11 (I. A. 22.) II II . —			
	主体性を持っ		生徒会は主体的に取り組もうという課題意識を		
		行事にするための支援や指導を行う。	持つ生徒が増えた。しかしながらコロナ禍で取		
特別活動部	や部活動、ボ		り組みの機会自体が減少してしまった。ボラン		
	ランティア活	ンティア活動に積極的に取り組む意識が高まる	ティア活動についても校外の活動は減少したが、		
	動に積極的に	ための指導を行う。	校内の活動には多くの生徒が参加した。部活動		
	取り組むため		は活性化のための費用面での改善に終始した。		
	の意識を作る。		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		
		1 ボランティア等は、新型ウイルス感染症のた	か、実施できなかった。		
総合評価		2 授業参観等の小中高の交流については、今以上に継続して続けたい。			
		2 投来参観等のか中間の交流については、写成工に軽視して続けたい。 3 少人数授業等の取り組みについては、落ち着いた授業が展開できているので継続したい。			
		3 少人数投来等の取り組みについては、落ち有いた仗来が展開できているので継続したい。 4 部活動の活性化については、さらなる発展を目指す。			
		6 進路指導の充実については、進学・就職ともに生徒のために取り組みを続ける。			
		7 50 周年に向けては、同窓会を中心に進めるが、職員の理解と協力をお願いする。			
		8 教員の働き方改革については、社会全体の課題であるが、業務改善も必要である。			
		9 情報発信については、メディアへの情報発信やホームページの活用を積極的におこなう。			
		10 校内の環境整備については、きれいな状態に維持されているので維持していく。			
		11 PTAとの連携については、PTAの協力があるのはありがたいのでさらなる発展を目指す。			

イ 学校関係者評価結果等

(7) 学校関係者評価

「生徒の成長を第一に考える学校づくり」を推進する具体的方策について主な評価項目自己評価結果について・保護者の協力が大きな力となるため、PTA役員、委員を通じてさらに多くの保護者にかかわりを持ってもらい、現状を見てもらう機会を多く持つようにしていく。

- ① 授業規律は年々向上している。
- ② 身だしなみは、指導体制が整ってきており、正しい着こなし、さわやかな姿が定着してきている。
- ③ いじめ防止については、未然防止・早期発見・早期対応を心がけるとともに校内の指導体制を整えていく。
- ④ 登校指導に加え、下校指導も実施し、全教職員による実態の認識と指導の実践に当たることが重要である
- ⑤ 進路指導については、個に応じた指導を行った。進学・就職ともに希望の進路を実現できた生徒が増加したので、この取り組みを継続して実施する。
- ⑥ 部活動は年々活発になってきており、地域からも評価されるようになった。
- ⑦ ボランティア活動等の地域連携は、今後も継続していく。
- ⑧ 生徒会活動に主体的に取り組む姿勢を作っていきたい。
- ⑨ 校内作成の広報紙の配布、掲示など、学校から情報発信をおこなった結果、学校に対して一定の理解が得られた。
- (イ) 今後の改善方策について
 - ① 身だしなみは、自ら考え、自らから進んで整えられるよう指導する。指導は担当者だけでなく、学校全体で組織的な指導を実践する。
 - ② 自らが授業の必要性を感じる意識を醸成し、授業規律を向上させる。
 - ③ 学校行事の狙いをより明確にして、生徒が自主的に取り組むよう、教職員が一丸となって生徒を成長させる体制を整える。
 - ④ 清掃活動を通じて環境美化に努め、清潔な学習環境の維持に努めるとともに、地域貢献による帰属意識の向上を図る。
 - ⑤ 社会の形成者としての望ましい資質の醸成が今後の課題である
- (ウ) その他(学校関係者評価委員から出された主な意見・要望)
 - ① ボランティア活動、若者会議など地域連携をさらに充実させたい。
 - ② 小・中・高間の授業参観、部活動交流などを充実させたい。。
 - ③ 働き方改革で、行事の精選は必要であるが、カットするだけではいけない。
 - ④ 部活動においては、野球部の頑張りが評価でき、他の部活動への刺激になっている。
 - ⑤ 学校の魅力を、ホームページなどを活用して広報活動を積極的に行うべきである。
 - ⑥ 保護者は卒業後の進路を見ているので、進学への実績を出して欲しい。
 - ⑦ PTA活動においては、役員の選出が困難を極める。
 - ⑧ 50周年に向けて準備を始める時期にきている。
- (エ) 学校関係者評価委員会の構成及び評価時期
 - ① 構成 学校評議員5名
 - ① 評価時期 1月下旬
- (5) 学校経営管理上の問題点
 - ア 時代の変化、ニーズに対応した教育活動をおこなうこと
 - イ 教職員の指導力向上のための現職研修を充実すること
 - ウ 高大接続改革に対応する体制整備をおこなうこと
 - エ 新学習指導要領の実施に向けての体制整備をおこなうこと
 - オ 生徒指導においては、生徒に指導の意義や指導基準を理解させ、教職員が学年、分掌の枠を越えて全校体制で取り組むこと
 - カ 生徒の多様な進路目標を支援できる体制の充実を図ること
 - キ 東浦高校創立50周年を踏まえ、同窓会との連携を強化すること
 - ク 保護者との連携を強化し、PTA活動の充実を図ること
 - ケ 地域(町、町教育委員会、地元小・中学校等)との連携を強化すること
 - コ 施設・設備の点検や整備・補修の実施及び安全管理の徹底を行うこと